

EPOCHAL

[エポカル]

vol. 33
2019 SPRING



特集 熊本地震から3年

誘致企業及び熊本県の インフラの復興状況と 5年先の展望

熊本県企業誘致連絡協議会会報

EPOCHAL vol.33

熊本県企業誘致連絡協議会【事務局 熊本県企業立地課内】 熊本市中央区水前寺6-18-1 TEL 096-333-2330 FAX 096-385-5797

人と社会、熊本を輝かせる！ それが「ブライツ企業」

288社
認定！

「ブライツ企業」とは、ブラック企業と対極の企業をイメージするもので、
働く人がいきいきと輝き、安心して働き続けられる企業のことです。

ブライツ企業は 熊本県が認定

県内の事業所から募集を行い、熊本県労働審議会による審査にて、一定の水準を満たしている事業所をブライツ企業と認定しています。



ブライツ企業 シンボルマーク

熊本県から認定を受けた事業所は、自社の刊行物や社員の名刺等に提示することができます。

- 従業員とその家族の満足度が高い
- 地域の雇用を大切にしている
- 地域社会・地域経済への貢献度が高い
- 安定した経営を行っている

ブライツ企業 検索

熊本の誘致企業発掘サイト ハタラクト

魅力あふれるくまもとの誘致企業の情報や
くまもとで働く魅力などを紹介します。
あなたの「ハタラク」選択肢を広げよう！



パソコンやタブレット、スマホで
マルチに閲覧できる！

熊本の誘致企業発掘サイト
「ハタラクト」

ハタラクト 検索

<http://www.kumamoto-investment.jp/hatarakuto/>



熊本県企業立地課

〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1
TEL 096-383-1111(代表)
TEL 096-333-2330(直通)
FAX 096-385-5797
kigyouricchika@pref.kumamoto.lg.jp

熊本県東京事務所 くまもとビジネス推進課

〒104-0061 東京都中央区銀座5-3-16
銀座熊本館3階
TEL 03-3572-5022
FAX 03-3574-6714
toukyoujimusy@pref.kumamoto.lg.jp

熊本県大阪事務所

〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第3ビル21階
TEL 06-6344-3883
FAX 06-6344-3807
oosakajimu@pref.kumamoto.lg.jp



企業立地ガイド
KUMAMOTO

<http://www.kumamoto-investment.jp>



熊本県企業誘致連絡協議会
【エポカル】

<http://e-kbda.jp>



未来を見据えた 創造的復興へ！

平成28年熊本地震から3年、
くまもとは「創造的復興」を合言葉に、
さらなる発展へとつながる復興を遂げてきた。
九州における交通の拠点として利便性が高く、
国内だけでなく韓国や台湾、中国などの
主要都市をターゲットに幅広いビジネス展開が
可能な立地環境を有するくまもと。
清らかで豊かな水とその立地環境を生かし、
くまもとは、九州の中心から
アジアの拠点へ――。

CONTENTS

企業特集 TOP INTERVIEW

熊本地震から3年
～誘致企業及び熊本県の
インフラの復興状況と5年先の展望～

- 03 アイシン九州株式会社
- 05 株式会社BBSアウトソーシング熊本
- 07 株式会社堀場エステック 阿蘇工場

熊本県のインフラ 創造的復興

- 09 新たな時代を拓く 創造くまもと
- 13 より便利に、好アクセスに 加速する創造的復興

熊本県の優れた立地環境

- 15 九州の中心をアジアの拠点に
快速！熊本 交通アクセス
- 17 熊本県立地環境のご案内

19 NEW FACE ー新会員紹介ー

- 21 平成30年度 事業報告

その後、8月中旬には大半のラインを引き戻し、22日には約4カ月ぶりにフル生産を実現。9月下旬には震災前の水準に戻り、年末には全ての従業員が、帰ってきた。約束通り、アイシン九州は、わずか8カ月で完全復活を成し

した」
 4月22日、「一致団結」の文字が躍る横断幕が貼られた広場には、現場で働く従業員およそ400名と軽トラツクの荷台に上がった高橋前社長の姿があった。「必ずこの地に戻る」という**力強い宣言**に、従業員も力強く「がんばろう！」三唱で応え、約350人もの従業員が、代替生産先に出向し、生産を支えてくれたという。
 「金型プレス機は操業すると、とても大きな音が出るんですよ。カッターカッターってね。それは私たちにとっては、待ちわびた復興の足音。再び聞こえた時は、うれしかったですね」と、高橋前社長。



ドアの開閉を制御するドアチェック



ルーフレール製造の様子

売上ベースでは、被災前301億円だったが、平成30(2018)年には339億円と飛躍的に伸び、2020年には350億円を目指す。「現在は自動車業界にとって、100年に一度

遂げたのだ。
平 成5(1993)年、アイシン九州は、建屋の広さ4600平方メートルで創業。14年後に設立したアイシン九州キャスティングと合わせ、現在では4万4793平方メートルにまで拡大してきた。それを支えたのが、レクサスのサンルーフやルーフレールの製造ラインであり、熊本地震の翌年には新規生産ラインの増設も決定し、**熊本市と立地協定を締結**した。

また、万一の場合に備えて、代替生産を早期に開始できるような関連企業との協体制の構築、社員を守る備蓄品等の備えと、社員安否システムなども課題であり、従業員が安心して働ける環境の整備にも力を入れていきたいと思いますね」



全国から届いた応援メッセージ

「安心な物流を確保し、より低コストで商品を供給できるように、九州圏内で部材調達する割合を増やして、地産地消を構築していきたい。それが真のBCP(事業継続計画)対策につながるのではないかと考えています。また、万一の場合に備えて、代替生産を早期に開始できるような関連企業との協体制の構築、社員を守る備蓄品等の備えと、社員安否システムなども課題であり、従業員が安心して働ける環境の整備にも力を入れていきたいと思いますね」

熊 本地震を乗り越え、順調に成長を続ける中で、平成30(2018)年に発生した西日本豪雨では物流が寸断され、部材調達にストップする事態にも陥り、災害時におけるさまざまな課題も浮かび上がった。
 「安心な物流を確保し、より低コストで商品を供給できるように、九州圏内で部材調達する割合を増やして、地産地消を構築していきたい。それが真のBCP(事業継続計画)対策につながるのではないかと考えています。また、万一の場合に備えて、代替生産を早期に開始できるような関連企業との協体制の構築、社員を守る備蓄品等の備えと、社員安否システムなども課題であり、従業員が安心して働ける環境の整備にも力を入れていきたいと思いますね」

ア イシン精機(本社・愛知県刈谷市グループで、自動車部品製造の核としてフル稼働する「アイシン九州株式会社」。中でも「ドアチェック」というドアの開閉を制御する装置は、トヨタ向けのほぼ全量である月産90万個もの生産を担っている。
 「平成28年熊本地震」では、**工場が壊滅的な被害**を受け、国内のトヨタ自動車完成工場への製品の供給が

停止するというかつてない非常事態に陥った。しかし、わずか1週間で代替生産を開始。前代未聞の危機を乗り越える大きな力となったのは、従業員たちの執念と、高橋寛顧問(前社長)が放った「アイシン九州復活宣言」だった。
 本震直後には、まずドアチェックのラインを他工場に移管。国内14工場でするサンプルやドアフレームなどの代

代替生産がスタートした頃、従業員の多くが不安を抱えていたという。「被災直後から、熊本から撤退するのではないかと噂が広がりました。代替生産の工場へ派遣される従業員たちが『もう熊本へ帰れないのではないかと心配する前に、わたしの思いを伝えようと、皆に広場に集まってもらいま

TOP INTERVIEW

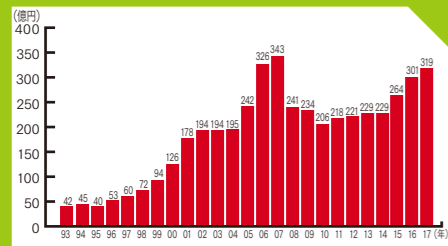
100年に一度の自動車業界の変革期 長期的視野で前進

アイシン九州株式会社

顧問 高橋 寛さん
 (前代表取締役社長、写真右)
 代表取締役社長 田中俊夫さん
 (「アイシン九州キャスティング」社長を兼務)



COMPANY INFO
アイシン九州株式会社
 所在地/熊本県熊本市南区城南町舞原字西500-1
 設立/平成5(1993)年
 従業員数/814人
 事業概要/自動車部品「サンルーフ」「ドアチェック」など中心に生産。エンジン部品については、子会社である「アイシン九州キャスティング株式会社」が鋳造から加工・組立まで、一貫生産。電器・電子事業では、液晶半導体装置の組み立ても行っている。



E 創業から復活への歩み
 平成5(1993)年操業開始以来、事業拡張、工場の増床などに取り組んできた。2008年のリーマンショックや2016年の熊本地震を乗り越え、さらに高みを目指す。



D 自動車部品製造ラインの増設を決定
 平成29(2017)年、ルーフレールやサンルーフなどの製造ラインを増設するため、蒲島郁夫知事立ち会いのもと、熊本市と立地協定を締結した。



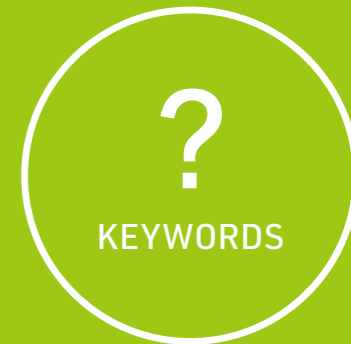
C アイシン九州復活宣言
 熊本撤退の噂を払拭した高橋前社長の復活宣言に、従業員は拳を突き上げて「がんばろう！」と応えた。従業員一人ひとりが復興を誓う契機にもなったに違いない。



B 豊田社長を囲んで
 4月26日、トヨタ自動車株式会社より激励に訪れた豊田章男社長を囲んで記念撮影。早期に実現したトップの来訪が、復興へのモチベーションを支えた。



A 被災状況
 天井クレーンが落下し、500トンプレス機を襲った。工場建屋の柱脚の多くに損傷が生じたほか、工期が異なる床面の継ぎ目に段差が発生した。





B OKが熊本を拠点に、精力的に事業を拡張してきた理由は「熊本が好きだから」というが、もちろんそれだけではない。「熊本市は全国の政令指定都市の中でもさまざまな面でコストパフォーマンスが高く、さ

けつけてくれた。その姿が印象的でしたね。業務については、顧客先へ従業員が足を運び、現場でサービスを提供する体制を確保しました。お客さまからご協力もいただき、事前に策定していたBCP(事業継続計画)も、十分機能できたと考えています」と天野センター長。熊本ですべての業務を再開できたのは、5月9日のことだ。

B OKが熊本を拠点に、精力的に事業を拡張してきた理由は「熊本が好きだから」というが、もちろんそれだけではない。「熊本市は全国の政令指定都市の中でもさまざまな面でコストパフォーマンスが高く、さ

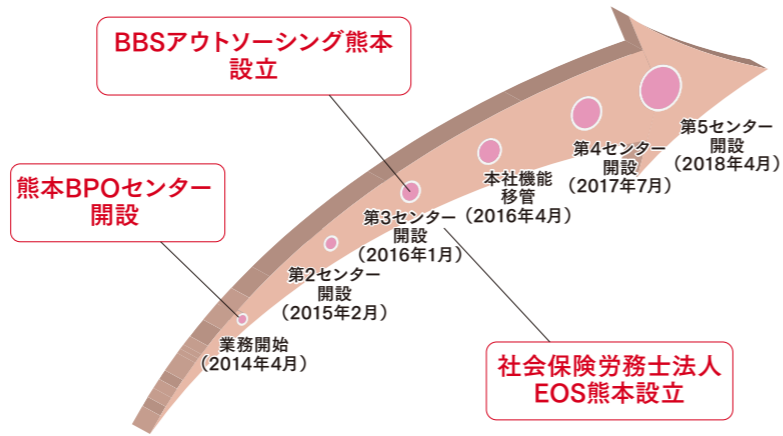
らには事務職のスペシャリストが多いことから、当社が目指す、「ハイ・バリューBPO」の実現に好適地でした。また、熊本県や熊本市が誘致に熱心で、手厚いサポートを受けられることも大きかったですね」

B OKの創造的復興を象徴するのが、本社機能移転を記念して、地震後の6月に開かれた**本社機能移転式典**だ。また、飲料メーカー・サントリーの決算関連の経理業務を受託するなど、その後も順調に拡張を続けている。

一方、従業員にとっては、熊本にしながらサントリーをはじめ、一部上場企業の決算など専門性が高く高品質な業務に携わること、よりいっそうスキルを高めていく契機となる。単純作業を「やらされる」のではなく「やりたいことをやる」のがBOKの人材育成の流儀。「税理士などの資格を取得して独立したいという目標を持つ従業員も多いので、応援しています。企業としては戦力を失うことになりませんが、ひいては熊本のBPOクオリティを上げることに繋がります。顧客と当社、そして働き手の三者全員がWin Win Winになれるのがいいですね」

5年後のBOKが目指すものは、バックオフィス全体のBPO化である。RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)による

業務の自動化を図り、24時間365日ルーティンワークを任せていくことが、働き方改革の一助ともなるだろう。「これまでのBPOサービスは、人件費の安い中国(大連)へ流れていました。しかし、熊本から、日本クオリティの高品質な業務を運用しよう」と、**大連より熊本E**をコンセプトに掲げて展開しています。RPAなどのシステム開発とそれを扱うエンジニアの養成は、これからのBPOの双翼。熊本の中小企業に向けた業務パッケージなどを提案し、熊本の元気に貢献していきたいですね」



TOP INTERVIEW //

「大連<熊本!」 BPOサービスを通じ 熊本の可能性を拡大

人 人や経理などのバックオフィス業務を外部の専門機関に委託するBPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)に企業の期待が高まっている。「株式会社BBSアウトソーシング熊本」(以下BOK)は、平成28(2016)年1月に経営システムコンサル大手の「株式会社ビジネスブレイン太田昭和(東京都)の完全子会社として設立され、経理人事業務

株式会社BBS
アウトソーシング熊本

取締役
熊本BPOセンター長
天野健太郎さん



究極のBPOとは、人は人しかできない業務を行い、それ以外はRPAが担うというスタイル。BPOを導入することは、社員から仕事を奪ってしまう側面もあります。そういった方々のスキルを当社で生かしてもらうよう出向受け入れも行っています。これも当社が大切にしてきた社会貢献の一つです。

などのBPOサービスを提供。同年4月1日には、本社機能の一部を熊本へ移管した。「熊本に根を張ろう」という決意の下、新たな一歩を踏み出してわずか二週間後、熊本を未曾有の激震が襲った。

前震が走った4月14日には、キャビネット等が倒れたものの大きな被害もなく、マンパワーのみで翌日には復旧のめどが付いたと語るのは、天野健太郎熊本BPOセンター長。土・日曜

太郎熊本BPOセンター長。土・日曜に対応すべき顧客もあり、16日の業務再開を決定した。

そして、**本震A**。熊本市内のライフレイン機能が失われ、事務所はさらに大きな被害を受けた。「余震が続く中、従業員の多くが自主的に会社に駆



COMPANY INFO
株式会社BBSアウトソーシング熊本
所在地/熊本県熊本市中央区水道町7-16
富士水道町ビル9F
設立/平成28(2016)年
従業員数/約150人
事業概要/東京・大阪などの企業に対して、経理ならびに総務人事サービスを提供。BBSグループでは、公認会計士・税理保険労務などの各分野の専門家が多数在籍し、企業の実情に合わせたきめ細かな高品質のサービスを提供している。



E 大連<熊本
BPOといえば、コストの安い中国(大連)などで運用するのが主流だが、BOKではより専門性の高い、高品質なサービスを熊本から届けている。



D 本社機能移転式典を記念して
平成28(2016)年4月より、経理や会計ソフト開発などの本社機能を段階的に移管してきた。石川社長は、「熊本を国内最大の拠点にしたい」と意気込みを語った。



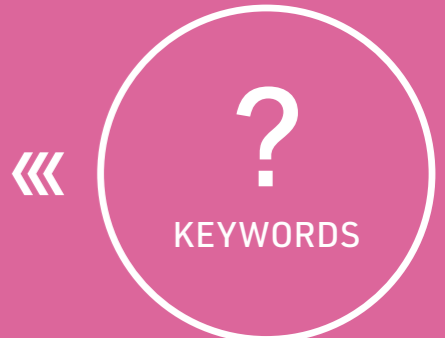
C 本社機能移転式典テープカット
開所式には、「ビジネスブレイン太田昭和」の石川俊彦社長をはじめ、蒲島郁夫熊本県知事、大西一史熊本市長らが出席し、新たな幕開けを祝った。



B ハイ・バリューBPO
BPOを活用し、企業にとって最適な組織戦略の策定を行うほか、現状の業務を整理して将来あるべき業務プロセスを提案するなど、より高度なサービスを提供。



A 本震からの復旧
本震で稼働停止を余儀なくされたセンターの被災状況。地震によって得た経験を生かして、現在より確実なBCP対策とBPOサービスを提案している。



また、原材料は奇跡的に被災を免れることができた。熊本に進出した時にはすでに布田川断層の存在を知っていたことから、可能な限りの防災対策は行っていたという小山工場長。かつて本社が経験した阪神淡路大震災の経験が生きていた。棚に張っておいたロープが原材料の落下を防いだことや、移動用キャスターが揺れを吸収したために棚の倒壊を免れ、原材料を破損から守ってくれた。

しかし、再開したとはいえ、工場内ではエアコンも使えない状況。従業員たちは薄暗い中、首を氷で冷やしながらかも、作業の手を止めることはなかったという。「一日も早く復旧したい」という思いがエネルギーとなり、劇的に早い復旧に繋がった。

堀場 厚会長と小石秀之社長が、早期に激励に訪れたことが、創造的復興



ガ ス流量制御器「マスフローコントローラー」(以下、MFC)を日本で初めて製品・実用化に成功した「堀場エステック」(本社・京都市)。MFC生産の核となる阿蘇工場が、「平成28年熊本地震」で甚大な被害を受けた。地震発生以降、企業としての存続さえ危ぶまれる中で、同社が出した答えは「阿蘇工場の事業拡張」。県内の創造的復興の魁となった。

TOP INTERVIEW //

被災直後に事業拡張を決定
 “メイド イン 阿蘇”品質で
 世界へと羽ばたく

株式会社堀場エステック

阿蘇工場長

小山 博之さん

阿蘇工場では医療用分析・計測機器の生産も手掛けています。半導体と医療分野のシナジー効果に期待しています。HORIBAグループのコア技術に立脚した「メイド イン 阿蘇」の製品を世界へ届けていきたいですね。



本震発生直後の工場内 A では、天井は落ち、クリーンルームなどの設備が倒れ、手の付けようのない状況だったと、当時を振り返る小山博之阿蘇工場長。「工場に駆けつけると、復旧の道筋が全く見えないショッキングな光景。すでに全てのライフラインも止まっています」

従業員も全壊や半壊の被害に遭いながらも、本震から二日後には80名も

創 造的復興に向けたプロジェクトが起動したのは被災から2週間後のこと。次の工場のプランを練る一方で、復旧を進め、6月には**当時過去最高の生産台数2万台B**を記録した。そのパワーこそ「熊本の県民性」にあり」と小山工場長は語っている。「熊本の皆さんは、情熱的でとても真面目。団結力も強く、被災後に従業員同士の一体感がさらに高まりました。従業員一人一人の「工場愛」が、復旧途中の不自由な環境の中で過去最高の生産台数という形となって現れた。阿蘇工場を支えているのは熊本の皆



さんの「思い」なのです」

平成28(2016)年7月、熊本県庁で蒲島郁夫知事立ち会いの下、同社は西原村と立地協定を締結。それは地震後初の公表による立地協定締結となった。

5期目の増設となった新工場は、**クリーンルームの面積を従来の1.7倍に拡張C**して新たな一貫した生産ラインを構築。流体制御機器生産量を倍増し、世界の半導体製造メーカーへ十分に製品を供給できるような生産体制を整え、一層のシェア拡大を目指した。そして平成30(2018)年3月には、ついに生産台数3万台を超えた。

M F Cは量産品でありながら、顧客ニーズに合わせてカスタマイズしていく側面を持つ。世界が「メイドインジャパン」に注目する中で、阿蘇工場は「メイドイン阿蘇D」をファクトリーブランドに掲げ、先進の技術と丁寧な手作業で、「阿蘇クオリティー」を展開している。

今後の課題は、効率をさらに上げた生産体制の構築だと小山工場長は言う。「世の中はIOT(モノのインターネット)を活用した、第4次産業革命の時代に突入しています。より生産性、効率を高めた工場にすべく、最先端の技術を有するエンジニアを育て、**HORIBAグループE**のマザー工場として、優れた人財を世界に送り出していきたいですね」



COMPANY INFO
株式会社堀場エステック 阿蘇工場
 所在地/熊本県阿蘇郡西原村大字鳥子字講米畑 358-11
 設立/昭和63(1988)年
 従業員数/600人
 事業概要/世界シェア約60%を占める「半導体製造向けマスフローコントローラー」の生産拠点。2012年からは堀場製作所の血液検査装置、小型製品などの医療用分析・計測機器の生産も行っている。

の従業員が自主的に出勤し、復旧に向けた作業を開始。驚くことに2週間後からは、徐々に生産をスタートすることができたという。その要となったのが水の確保だ。近隣の企業に水を分けしてもらい、3トンの給水車を1日に10往復走らせた。

KEYWORDS

?



E 新たな生産体制で世界へ
 阿蘇から世界へ飛び出してグローバルに活躍できるのが、堀場エステックで働く魅力の一つ。世界中に点在する拠点とともに、シェアを拡大し続けている。



D 阿蘇工場の全景
 MFCの量産工場として操業開始した当時の社員数は15名。5期の増床工事を経て、現在の社員数600名まで成長を遂げた。その歴史が社屋の形に現れている。



C 5期竣工を経て
 被災後、平成30(2018)年5月に5期工事を終え、創造的復興を遂げた。クリーンルームも拡張し、より効率的な生産ラインを構築し、さらなる発展の礎とした。



B 過去最高の生産台数を記録
 震災からの復旧活動と新工場の立ち上げというダブルのミッションを併行しながら、過去最高の生産台数をたたき出した。阿蘇工場の底力を感じさせる。



A 本震で被災した工場内
 明かりもエアコンもない中で取り組む過酷な復旧作業に、雨漏りが追い打ちをかける。専門業者のサポートも得て、早期生産開始を実現した。



桜町再開発完成予想パース

創造的復興のシンボル
復興 **桜町再開発**

2019年9月、
新たなランドマーク誕生

熊本市の交通センター跡地では、「創造的復興」の核となる桜町再開発の建設工事が、9月の開業に向け、急ピッチで進んでいる。日本最大級のバスターミナルや熊本城ホール、ホテル、商業施設、住宅、バンケットなど多彩な役割を担う同施設では、防災・減災の機能を強化し、災害時には防災拠点を補完する役割も担う。



復興イメージ図

「住み続けたいまち、次世代に継承したいまち」へ
復興 **益城町復興計画**

いよいよ再生期を迎える

熊本地震で大きな被害を受けた益城町の復興計画は、復旧期から再生期へと進み、2019年度に大きな山場を迎える。「木山地区土地区画整理事業」は、4月から地権者に仮換地(案)の個別説明をスタート。また、県道熊本高森線の4車線化事業では、2019年1月に一部区間の工事に着手した。



益城町復興計画



完成予想パース

ヘリポートや
災害時の電力・水を完備
医療 **熊本市民病院**

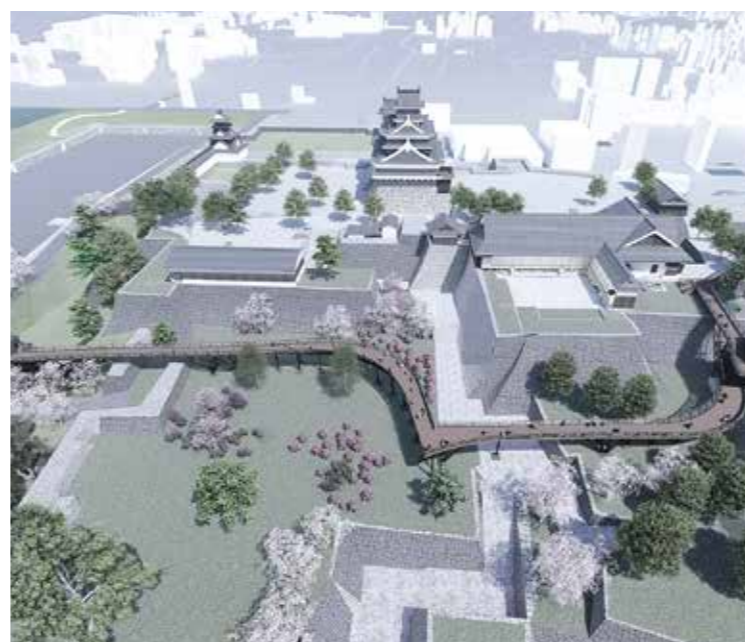
教訓生かし、災害に強い病院へ

2019年10月に移転開業する熊本市民病院(熊本市東区東町4丁目)。熊本地震で被災した教訓を生かし、免震構造を採用し、災害時にライフラインを確保できるシステムを導入。災害に強い病院として生まれ変わる。



新たな時代を拓く
創造くまもと

平成28年熊本地震から3年、くまもとは創造的復興を目指して復旧を遂げてきました。未来を見据えた復旧・復興と、新たな時代を築くインフラの創造。今、この時も「くまもと」は進化し続けています。



大天守では「目地漆喰」と呼ばれる白い漆喰を敷いた瓦葺きや壁面の工事が完了し、白黒の美しい外観を見ることができる。

復興 **2019年秋、大天守外観復旧完了
熊本城**

復旧過程を見学できる特別公開第1弾を実施

2018年3月に熊本市により策定された「熊本城復旧基本計画」に沿い、復旧が着々と進んでいる。2019年度は熊本県にとって“国際スポーツイヤー”。10月「ラグビーワールドカップ2019」、11~12月「2019女子ハンドボール世界選手権大会」という国際大会開催に先駆け、大天守の外観復旧が完了。10月5日(土)からは日曜・祝日限定で特別公開第1弾をスタートする。公開されるのは、二の丸広場を起点に西出丸から工事用スロープを通り、平左衛門丸の一部や天守閣前広場の一部に至るルート。2021年春ごろまでには、小天守を含む天守閣全体の復旧完了を目標に、工事が進められている。



※イラストはイメージです 提供：九州旅客鉄道株式会社



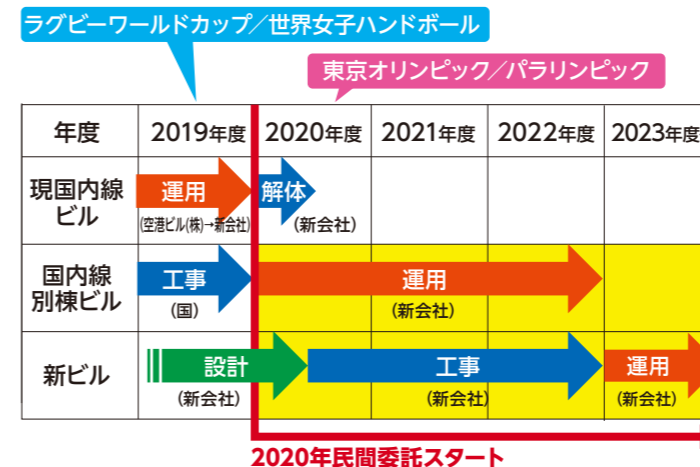
現在の阿蘇くまもと空港

交通 創造的復興のシンボルに
阿蘇くまもと空港

2020年4月の民間委託が目前に

阿蘇くまもと空港を熊本地震からの創造的復興のシンボルとし、空港の活性化を産業や暮らしに波及させるために「大空港構想Next Stage」を策定。九州の中央に位置するポテンシャルを生かして、交流人口の増大やスムーズな交通アクセスの実現、さらに広域防災拠点としての機能の強化も図る。2015年度に、災害時の救助や医療活動、物資の受け入れ等を行う“大規模な広域防災拠点”に選定され、隣接地では熊本県総合防災航空センターがすでに運用を開始。現在、2020年4月からの空港運営民間委託に向けた準備が進められている。空港全体の運営に先立ち2019年7月には新運営会社によるターミナルビルの運営が始まり、2023年末には、いよいよ耐震性能に優れた、国内線と国際線が一体となった新ターミナルビルの供用も開始予定。

阿蘇くまもと空港ターミナル地域再編
想定スケジュール



熊本駅ビル(左)と熊本駅北ビル(右)完成予想パース

交通 安藤忠雄氏デザインの“武者返し”
熊本駅

2021年春には熊本駅ビルもオープン

2018年3月は熊本駅周辺の豊肥本線と鹿児島本線下り線の高架化が完了。九州新幹線が発着する西口に商業施設「肥後よかモン市場」がオープンして話題を集めた。2019年には、旧駅舎の解体と新熊本駅舎の外壁工事を完了し、白川口駅前広場の整備に着手する。新熊本駅舎は建築家・安藤忠雄氏のデザインで、熊本城の石垣「武者返し」をイメージ。白川口駅前広場には、中央広場とバス・タクシー乗り場、一般車両という三つにゾーニングされ、バスターミナルの先行供用を目指すという。2021年春には、シネマコンプレックスなどの商業施設や宿泊施設で構成される「熊本駅ビル」の開業も予定されている。また、JR九州は駅に直結するオフィスビル「熊本駅北ビル」(仮称)の建設を発表。駅ビルと二人三脚で、一帯のにぎわい創出に一役買う。

熊本駅再開発の概要

熊本駅ビルの概要

施工者：九州旅客鉄道株式会社
延床面積：109,000㎡ 敷地面積：19,000㎡
階数：地下1階～地上12階建て 駐車台数：2,100台(開発計画全体)
用途：ホテル(9～12階)・結婚式場(多目的バンケット、8階)・商業(シネマコンプレックス含む、1～7階)

熊本駅北ビル(仮称)の概要

施工者：九州旅客鉄道株式会社
延床面積：17,000㎡ 敷地面積：3,800㎡
階数：地上12階建て 用途：商業(1～3階)、オフィス(4～12階)
開業予定：2020年冬

国内線別棟ビルおよび
新ターミナル整備イメージ





阿蘇大橋
2020年度中の開通を目指し、24時間体制で復旧工事が進められている。

長陽大橋
2017年9月に開通。寸断されていた立野地区を最短ルートで復旧。

もっと便利に、もっと早く！

県内の高速交通網さらに充実!!

2019年3月2日、南九州西回り自動車道の津奈木IC～水俣IC間の5.6キロメートルが開通し、熊本～水俣間の所要時間は約7分短縮。前年12月には、九州中央自動車道の小池高山IC～山都中島西IC間も開通。九州自動車道では植木IC～熊本IC間に2019年3月に開通した北熊本スマートICに続き、人吉球磨スマートICも、2019年秋頃の開通を目指して整備が進められている。



北熊本スマートIC

熊本～大分間の物流活性化・周辺の渋滞緩和を期待

中九州横断道路

大分～熊本を結ぶ構想である中九州横断道路の大津町～熊本市間の約14キロメートルについて、ルート案が公表された。大津町を起点に合志市北部を横断し、熊本市北区を経て、新設される熊本北ジャンクション（仮称）を九州自動車道に直結。4車線の自動車専用道路を目指す。現在県内では、国土交通省が阿蘇市「滝室坂道路」の区間の工事を進めている。

ふたえのとうげ 二重峠トンネル貫通!!

国道57号の災害復旧も目前に

熊本地震で寸断された現道の北側に「国道57号北側復旧ルート」を整備中。大津町～阿蘇市間の工事のうち、最大の難関といわれた二重峠トンネル。本坑（幅約14メートル、長さ3,659メートル）と避難坑（幅約9メートル、長さ3,652メートル）を大津側と阿蘇側それぞれから掘り進め、2019年2月23日について貫通した。2020年度中の復旧ルート開通を目指す。

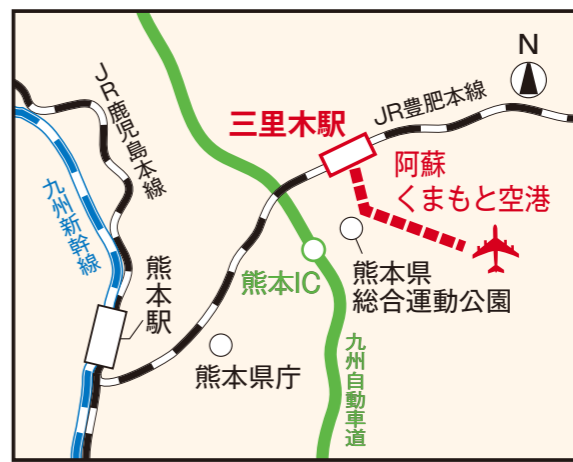
より便利に、好アクセスに 加速するインフラ 創造的復興

熊本地震で被災した道路や橋梁の復旧が加速的に進んでいます。より便利な交通アクセスを目指し復興する「くまもとの今」をお伝えします。



COLUMN
熊本市中心部と空港のアクセス向上を目指して

- 定時性や速さが決め手
- 空港アクセス鉄道
- 早期実現を視野に



熊本県は、長らく大きな課題として検討されてきた熊本市中心部と熊本空港の交通アクセスの向上対策として、JR豊肥本線を三里木駅（菊陽町）から空港まで延伸する方向で、国やJR九州と協議を進めている。新たに設立する第3セクターが鉄道施設を整備するほか、運行はJR九州に委託。延伸後の熊本駅～空港間の所要時間は、現在のリムジンバス利用時の約60分から約40分に短縮され、定時性も向上し、空港アクセスが格段に向上する見込み。

九州の中心をアジアの拠点に 快速！熊本交通アクセス

九州の中心・熊本は、九州自動車道や阿蘇くまもと空港・天草空港の空路、県内各地の港湾による航路などを活用した物流の拠点として多くの企業が進出しています。さらに創造的復興を視野に県内各地を結ぶ高速道路やインターチェンジを整備。今や、日本各地はもちろん、アジアの玄関口として、活躍しています。



COLUMN くまもとの港

世界に繋がる九州の物流拠点として、ますます利便性が高まる熊本港・八代港

両港は、世界屈指のハブ港に成長した韓国・釜山港との間に定期コンテナ船が運航中。熊本港はコンテナヤードの拡張と危険物の仮貯蔵が可能に。八代港はフルガントリークレーンを整備し、平成30年4月に新コンテナターミナルを供用開始、新たに高圧ガスの貯蔵も可能になるなど、利便性向上による更なる発展が期待されている。

[八代港クルーズ拠点整備]

2020年4月に供用予定のクルーズ拠点施設。クルーズ専用岸壁、旅客ターミナル、駐車場エリア等を整備。

※今後の設計等により、大きさ・形状・色および配色等については変更となる可能性があります



熊本県営工業団地 菊池テクノパーク

空港、高速ICへのアクセス良好！周辺に半導体・自動車関連企業が集積！

所在地 熊本県菊池市旭志川辺地内
分譲可能面積 15.5ha 分譲単価 13,000円/㎡
交通 熊本空港まで12km、熊本ICまで16km



上記以外の県、市町村営の工業団地 (ha以上)

工業団地名	所在地	開発総面積(ha)	工業用地面積(ha)	分譲可能面積(ha)	分譲区画数	分譲単価(円/㎡)
名石浜工業用地	長洲町	116.5	101.6	6.1	2	11,200
八代外港工業団地	八代市	218.2	167.3	3.0	1	10,300
津奈木工業団地	津奈木町	20.6	20.6	3.9	1	10,600
人吉中核工業用地	人吉市	10.8	5.0	5.0	1	応相談

熊本県 立地環境のご案内

Kumamoto

企業立地に関する情報は…

企業立地ガイド KUMAMOTO をチェック!!



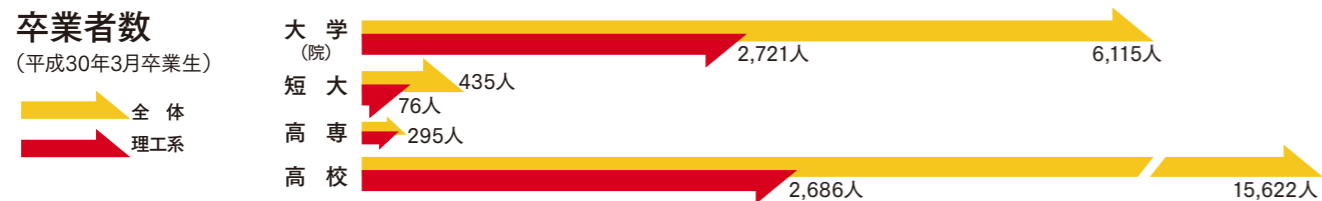
企業立地ガイドKUMAMOTO 検索

熊本県がさまざまな優遇措置で 企業立地をバックアップ!

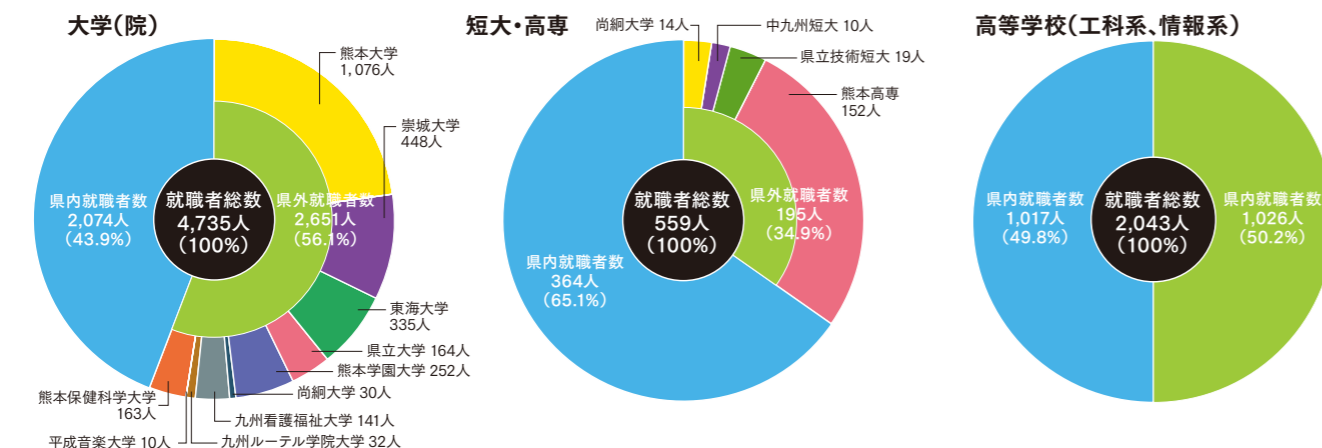
清らかな水と豊かな大地、

そして優れた人材が熊本で待っています。

10大学・3短大・1高専等が輩出する熊本の優秀な人材



県内外の就職状況 (平成30年3月卒業生)



NEW!! スモールスタート研究開発業 ~熊本県企業立地補助金~

- 対象: 投資額1,000万円以上かつ雇用3人以上 (新たに熊本県内に研究開発施設等を設置するもの)
- 補助金額: ①投資額×10% ②新規雇用者50万/人 ③事業所の年間賃借額×1/2 (4年間)
- 限度額: 1億円

熊本県企業立地促進補助金

- 対象: 投資額3億円以上かつ雇用10人以上

研究開発業: 5千万円以上かつ5人以上
外資系企業: 基準なし
大規模投資企業: 200億円以上かつ200人以上の新設企業

- 限度額: 50億円

熊本県産業支援サービス業等立地促進補助金

- 対象: 投資額3,000万円以上かつ雇用50人以上

IT関連企業等は投資額1,000万円以上かつ雇用10人以上
人口減少市町村、過疎地域等に立地する場合は、さらに要件緩和あり

- 限度額: 5億円(コールセンター等) 1.5億円(IT関連企業等)

※本社機能移転についても同様の制度あり

国際コンテナ利用拡大助成事業

新規利用企業

- 対象: 前年度に熊本県内港を利用したことがない荷主企業 (国際コンテナ利用拡大助成金の交付を受けていない)
- 助成金額: 1TEU当たり2万円 (内訳: 熊本県1万円、熊本市1万円)

継続利用企業

- 対象: 前年度に熊本県内港を利用したことがある荷主企業 (国際コンテナ利用拡大助成金の交付を受けている)
- 助成金額: 1TEU当たり1万5千円 (内訳: 熊本県5千円、熊本市1万円)

がんばるけん!

くまもとけん!



世界52カ国でビジネスを展開 熊本がBPOの中核拠点に

アクセンチュア株式会社 熊本BPOセンター

「アクセンチュア株式会社」は、ストラテジー、コンサルティング、デジタル、テクノロジー、オペレーションズの5つの事業領域を持ち、世界52カ国にビジネスを展開する総合コンサルティング企業です。国内9拠点のうち、熊本BPOセンターは、クライアント企業の財務経理・人事などのオペレーション業務を請け負うビジネス・プロセス・アウトソーシングの中核拠点となっています。



所在地: 熊本県熊本市中央区花畑町12-24 熊本フコク生命ビル
TEL:096-356-0411 FAX:096-356-0477
事業所操業年月:2014年10月
事業所代表者:オペレーションズ本部 マネジング・ディレクター 中里 剛
従業員数:非公開
事業内容:戦略コンサルティング、デジタルコンサルティング、テクノロジーコンサルティング、アウトソーシングサービス

高品質・低コスト・短納期 自動車業界の困りごとを解決

株式会社ニフコ熊本

「株式会社ニフコ熊本」は、1991年に「株式会社ニフコ」と「日本たばこ産業株式会社」との合併で設立。2017年にニフコの完全子会社となり、現在まで、製造子会社として高品質・低コスト・短納期を実現しながら、自動車業界等のさまざまな顧客の困りごとを提案型営業で解決してまいりました。さらに、新工場が2019年3月に竣工し、5月より稼働いたします。それを契機に、製造子会社から、より付加価値の高い事業会社への脱皮を図ろうとしています。



所在地: 熊本県菊池市泗水町田島1152-20
TEL:0968-41-5400
事業所操業年月:1991年12月
事業所代表者:代表取締役社長 黒田 千秋
従業員数:340名
事業内容:プラスチック製品の製造・金型の設計製作

ユーザーに安心・安全、楽しいを届ける ICTの総合セキュリティー企業

イー・ガーディアン株式会社 熊本センター

「イー・ガーディアン株式会社」は、ゲーム、ソーシャル、アド・プロセス領域を中心に、インターネットサービスを運営する企業に対して、投稿監視やカスタマーサポート、広告運用代行などのさまざまなサービスを提供している東証一部上場企業です。20年以上の運用実績とノウハウを持ち、「We guard all」をテーマに全てのインターネット利用者に向けて、安心・安全をベースに「楽しい」を提供しています。



所在地: 熊本県熊本市中央区坪井2-2-35 熊電プラザビル1F
TEL:096-341-2525 FAX:096-341-2526
事業所操業年月:2015年9月
事業所代表者:三宅 聖司
従業員数:約120名
事業内容:リアルタイム投稿監視業務、ユーザーサポート業務、オンラインゲームカスタマーサポート業務、広告審査代行サービス業務など

お客様の信頼と期待に応え、 目的を実現する手段を構築

株式会社三幸九州TEC

私たちは、「信念」「正確」「推進」「信頼」「創造」を基本理念としております。企業とは、お客様との信頼関係の上に成り立つと考えます。信頼関係とは、お客様がより高い満足を得るために、全社員が強い信念を持ち、想像力を最大限に発揮し、推進してこそ構築されるものと確信しております。

私たちは、常にお客様がそれぞれの目的を実現するための手段を提供すると共に、その期待に確実に応えられるよう努力してまいります。



所在地: 熊本県熊本市西区春日5-17-33
TEL:096-277-1994 FAX:096-277-1995
事業所操業年月:1999年6月
事業所代表者:代表取締役 奥野 敦
従業員数:6名
事業内容:ケーブル・ハーネス関連の製造、自社開発に伴う制御盤などの製造・組立、顧客ニーズ対応品の設計、取引先開発品の評価及びレポートの作成

国家資格などを有するプロフェッショナル ナリストが高度なBPOサービスを展開

株式会社BBSアウトソーシング熊本

「株式会社BBSアウトソーシング熊本」は、経営会計情報システムの「株式会社ビジネスブレイン太田昭和」の100%出資子会社です。サントリー様をはじめとする大手企業に対して、公認会計士・社会保険労務士など多数のプロフェッショナルや、ビジネス・プロセス・アウトソーシング(以下BPO)に関するコンサルティング・運用のスペシャリストによって、通常のBPOサービスに加え、専門的な高度BPOサービスを提供しています。



所在地: [第1センター] 熊本県熊本市中央区水道町7-16 富士水道町ビル9F
[第2センター] 熊本市中央区水道町14-27 KADビル
TEL:096-342-4742 FAX:096-342-4758
事業所操業年月:2016年1月
事業所代表者:代表取締役 井上 典久
従業員数:約150名
事業内容:アウトソーシング事業、情報サービス業

ものづくりの現場の課題を解決する トータルエンジニアリングサービスを提供

株式会社古賀 M&D熊本事業所

「株式会社古賀 M&D熊本事業所」は、製造業の研究所、工場が必要とされる各種工場設備の販売を行っております。特徴は、「ものづくりの見える化」を目的とした計測装置の研究開発および製品開発や、除去加工を中心とした新加工技術の研究開発、製品開発なども行っていることです。また、ものづくり現場の課題を解決するトータルエンジニアリング総合商社として経済産業省より、2013年「がんばる中小企業・小規模事業者300社」、2017年「地域未来牽引企業」に選定いただきました。



所在地: 熊本県菊池郡菊陽町原水3802-30
TEL:096-285-5918 FAX:096-285-3128
事業所操業年月:2012年1月
事業所代表者:代表取締役 古賀 文雄
従業員数:7名
事業内容:試験・計測システム、加工システム、FAメカトロシステム、メンテナンスパーツなどの販売および計測装置の開発・製造

平成30年度 事業報告

平成31年2月1日(金) 特別セミナー

📍 ホテル日航熊本 (熊本市)



平成31年2月1日(金) ホテル日航熊本(熊本市)にて、熊本県産業振興協議会セミコンIT産業部会との共催で、特別セミナーを開催しました。約100名の皆様のご参加をいただきました。

- 「世界の二輪ものづくりをリードする
Honda熊本製作所が担う役割とチャレンジ」
本田技研工業株式会社 熊本製作所所長 下川一郎氏

平成30年12月12日(水)~14日(金) SEMICON JAPAN 2018出展

📍 東京ビッグサイト (東京都)



平成30年10月29日(月) 熊本県自動車関連企業 立地セミナー

📍 名鉄ニューグランドホテル (愛知県名古屋市)



平成30年10月29日(月)、名古屋市において、熊本県と共催で、熊本県自動車関連企業立地セミナーを開催しました。このセミナーは、国内自動車産業の一大集積地である東海地方の企業の方々を対象としたもので、約170名の多くの皆様にご参加いただきました。

- 「トヨタ自動車九州におけるTQM活動の取り組み」
トヨタ自動車九州㈱専務取締役 米岡俊郎氏
- 「感謝の復旧〜熊本地震からの学び・気づき〜」
アイシン精機㈱取締役副社長 岡部均氏
- 「熊本県の魅力〜選ばれる九州・熊本」
熊本県知事 蒲島郁夫

平成30年10月4日(木)~5日(金) 市町村研修会

📍 上天草市・天草市



平成30年10月4日(木)~5日(金)上天草市、天草市において、平成30年度熊本県企業誘致連絡協議会市町村研修会を開催しました。この研修会は、企業誘致行政に携わる市町村職員が必要とする知識や企業の現状について理解を深めるとともに、県及び市町村相互の情報交換や親睦を図ることで県全体の企業誘致活動の推進を図ることを目的として開催しているものです。今年度は、本協議会市町村会員23市町村36名に参加いただきました。

平成30年6月22日(金) 誘致企業等と 県内高等学校との 情報交換会

📍 ホテル熊本テルサ (熊本市)



平成30年6月22日(金)ホテル熊本テルサにて、会員を含む県内企業の人材確保に向けて、企業等の人事担当者と県内高等学校の就職担当者ととの情報交換会を開催しました。企業側15社から自社の特色、魅力をPRしていただいた後、企業ごとに設けられたブースを高等学校の就職担当者が巡回し、個別面談と名刺交換を行いました。会員企業等52社の人事担当者と高等学校42校の就職担当者など約160名の方々に参加していただき、活発な情報交換会となりました。

平成30年5月16日(水) 幹事会

📍 ホテル熊本テルサ (熊本市)



3

2

2019

1

12

11

10

9

8

7

6

5

2018

4

平成31年3月2日(土) 会員交流 ボウリング大会と交流会

📍 スポルト熊本 (熊本市)
KKRホテル熊本 (熊本市)



平成30年10月19日(金) 誘致企業等と県内大学・高専・専門学校との 情報交換会

📍 ホテル熊本テルサ (熊本市)

平成30年10月19日(金)ホテル熊本テルサ(熊本市)において、会員を含む県内企業の人材確保に向けて、企業等の人事担当者と県内大学、高専、専門学校の就職担当者ととの情報交換会を開催しました。

冒頭に熊本県企業誘致連絡協議会 副会長の村井浩一より挨拶後、専門学校を第1部、第1部、第2部として、学校側からのプレゼンテーションと名刺交換会を行いました。会員企業等72社の人事担当者と、大学、専門学校等など計16校の就職担当者らの約130名の方々に参加していただき、活発な情報交換会となりました。



平成30年10月1日(月) 「ハタラクト」オープン

CHECK!

平成30年10月1日(月)、熊本県と共同で制作した、熊本の誘致企業発掘サイト「ハタラクト」がオープンしました。このWEBサイトは、県内の若者、保護者等を対象に、本県の誘致企業及び会員に親しみを持ってもらい、就職先の有力候補が県内にあることを知ってもらおうと制作しました。社員食堂紹介などの楽しい特集記事も掲載することで、若者の興味を引くWEBサイトを目指しています。平成31年3月までに会員企業を含む約50社を紹介し、今後も内容の充実を図ります。

誘致企業発掘サイト
「ハタラクト」

<http://www.kumamoto-investment.jp/hatarakuto/>



平成30年6月5日(火) 平成30年度 熊本県企業誘致連絡協議会 通常総会

📍 ホテル日航熊本 (熊本市)



平成30年6月5日(火)ホテル日航熊本(熊本市)において、平成30年度通常総会を開催し、入退会状況報告や平成29年度事業・収支決算報告及び平成30年度事業計画・予算案等の議案が承認されました。また、新規入会企業として、株式会社古賀 M&D熊本事業所と、アクセンチュア株式会社熊本BPOセンターをご紹介しました。総会後の講演では、熊本市経済観光局 熊本城総合事務所熊本城調査研究センター副所長 網田龍生氏から「熊本地震発生後の熊本城再建に向けた取組」についてご講演いただきました。講演後の交流会には、田嶋副知事も出席され、会員間の活発な意見交換を図ることができました。

